開校50周年　校訓：明るく・仲よく・たくましく　「あ・な・た」を大切にする心のふるさとパリ日　depuis 1973

日仏文化学院

パリ日本人学校

令和5年度学校だより　第14号　令和6年２月１日発行　　パリ日本人学校　校長　伊藤　博

“逃げる”2月のスタート　～3日は節分　4日は立春～

１月は雪による二度の臨時休校や、農業団体によるデモ回避のための授業打ち切り等にご協力いただき、心から感謝を申し上げます。インフルエンザによる学級閉鎖も最小限で済んでいますが、今後とも様々な対応の場面で、ご協力いただくことがあるかもしれません。変わらぬご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、2月3日は節分、4日は立春で、この日を境に日本では暦（こよみ）の上での春となります。節分は現在、豆まきを行う冬の風物詩ですが、古くは四つの季節を分けた境目がそれぞれ「節分」だったようです。諸説ありますが、追儺（ついな）という大晦日に悪を追い払う宮中の儀式と結びつき、冬から春へと季節を分ける節分だけが定着したようです。朝が遅く寒い日が続くフランスですが、校庭の桜は雪にも寒さにも負けず、しっかりとつぼみをつけています。雪が消えない寒さの中、じっと耐えて、やがて来る春を健気（けなげ）に待っているような感じがしています。

3日（土）には土曜参観「提言フォーラム」が行われます。小学部１、2年生は、サンカンタン池公園や校庭などの変化を「へんしん」というキーワードで、小学部3年生以上は「パリパラリンピックを考える　～今のわたしと未来のわたし～」について発表します。これまで調べてきたことをもとに、しっかりと自分の提言ができるといいですね。

最後に、昔から2月は“逃げる月”と言われるように、またたく間に時が過ぎていく感じがします。ぜひ「逃げられる」ことなく、「逃がさず」充実した月としていきましょう。

いただいた“カレンダー”　各教室で役立っています！

昨年末にご家庭から寄贈いただいたカレンダーが、各教室等で役立っています。カレンダーには、日本国内や世界各地の自然風景や文化遺産などの素敵な写真が見られ、教室内を明るく飾る役目をしています。また、物によっては大寒や節分、立春などといった季節感を表す言葉が見られたりして、フランスにいながら日本の生活に思いを馳せることができます。他にも、フランスのバカンスが一覧でわかるものなどもあります。貴重な品をありがとうございました。また、次年度もぜひご協力いただけたらと思います。

避難訓練実施　～不審者の侵入に備えて～

１月17日（水）、不審者が校地内に侵入したことを想定した避難訓練が行われました。今回は事前予告のない訓練で、昼休みの時間中に不審者が来たことを知らせる緊急放送から始まりました。放送を聞いて近くの教室や体育館のトイレに逃げ込み、ドアロックをして静かに身を隠して次の放送を待ちました。

今回、在仏日本大使館警備担当の藤井杏樹様に訓練の一部始終を見ていただき、最後に指導講評をいただきました。各教室での避難の様子を見て、誰も人がいないようだというおほめの言葉をいただきました。また、講評の中で、犯人に対しては「かくれんぼ」をするように、できるだけ見つからない工夫をするということがありました。今回のような不審者への対応の仕方として、たいへん参考になりました。

さらに、先生方には、警備のプロからの視点で様々なご助言をいただきました。本校として、たいへん貴重なご助言となりました。私たちは海外に暮らしていて、いつどんな時に、どんな事件にでくわすか分からない状況にあります。今後とも、もしもの時を想定した真剣な訓練を続けていきましょう。

中学部体育　日本の武道“合気道”実施

～フランス人講師によるフランス語での講習実施～

1月15日から計6日間、中学部が武道の授業で合気道を体験しました。ブラヒム先生、ダニエル先生の二人のフランス人講師による講習でした。今回の講習はフランス語の語学力向上にもつなげるため、原則的にすべてフランス語で行われました。（中3の KK さん、中2の HM さんが適宜通訳として活躍しました。）

普段は笑い声が聞かれ、和やかなムードの中で行われる中学部の体育ですが、大体育館は静謐（せいひつ）な空間となり、凛としたムードが漂う時間を体験できました。特に、ブラヒム先生とダニエル先生の模範演技の際は、ほとんど無音の中で美しい動作が展開され、息をのみました。今回の武道体験は、フランス語による指導で極力日本語通訳を介さず、生徒の語学力向上を目指すイマージョン教育のさきがけととらえています。日本の武道をフランス人からフランス語で習う、これもパリ日ならではの体験ではないでしょうか。

小学部3年生　社会見学　ロダン美術館訪問

1月24日、小学部3年生がロダン美術館を見学しました。オーギュスト＝ロダンは1840年にパリで生まれ、1908年から10年間アトリエと住居としてビロン邸を使用、そこが美術館となっています。ロダンの作品は世界中から愛され、3年生は「考える人」「地獄の門」「カレーの市民」など、数々の有名な作品をじっくり眺めて自由スケッチしました。大変意欲的な鑑賞態度で、「4年生への 0 学期」への意識が感じられました。

さて、本校の中庭に与謝野晶子の「ああ皐月（さつき）仏蘭西（フランス）の野は火の色す君も雛罌粟(こくりこ)われも雛罌粟」を詠んだ歌碑があります。この歌は晶子が1912年（明治45年）5月にパリに到着した頃の作で、実はこの年の6月に夫の与謝野鉄幹と共にこのアトリエでロダンに会っています。晶子も鉄幹も日本にいる頃からロダンを大変敬愛しており、ロダンと直接対面できたことの喜びを短歌にも詠んでいます。また、日本帰国後に生まれた四男に、ロダンと同じ名前の「アウギュスト」*と名付けたほどで、その喜びの大きさが想像できます。 パリ日とロダン、与謝野晶子との不思議な縁を感じます。 *その後、昱（いく）と改名。

小学部2年生　現地校訪問実施

１月１８日が降雪で臨時休校となったため、１月２５日に小学部２年生が現地校訪問として、ECOLE ROSA BONHEUR を訪問しました。今回は、本校フランス語講師のファビエンヌ先生と森田先生が一緒に参加しました。

相手校は6～7歳の児童で、ほぼ同年代の交流でした。落ち着いた村の中心にあり、隣に建つ教会を見て2年生の子供たちは「ハリーポッターみたい」と歓声を上げていました。教室内では、実際に学校付近に生息する野生の動物のカラー写真を切り抜き、動物名と一致させて貼っていくワークを行いました。そして、終了後には中庭でみんな輪になり「アヴィニョンの橋で」を歌いながら踊りました。楽しそうな光景に、こちらもほっこりした気分になりました。最後に、用意していた名札や折り紙をプレゼントしてお別れしました。

就学児童一日体験入学実施　～5年生が見事な受け入れ～

１月２６日、４月から小学部に入学予定の幼稚園児のための一日体験入学が行われました。今回、出迎えから見送りまで、４月から最高学年となる5年生が責任をもって行いました。 はじめに現小学部１年生担任の滝川先生が行う授業で、小学校の教室を体験してもらいました。 そして、現小学部１年生が「子犬のマーチ」を鍵盤ハーモニカとパーカッションで見事に演奏しました。演奏に続いてのメッセージも素晴らしかったです。しっかりしたお兄さん、お姉さんとしての存在感を示しました。１年生の皆さん、とても立派でした！

そして、次は5年生が見事なおもてなしぶりを発揮しました。幼稚園児をグループごとに分け、それぞれ担当を決めてお世話したり、校舎内探検に出かけたり、色々と楽しませながらプレゼントを渡したりと、頼もしさを感じました。「6年生への0学期」を意識した行動に、来校した園児たちはきっと安心してパリ日に入学できると確信したことでしょう。5年生の皆さんありがとうございました。

小学部5年生　社会見学　NHK ヨーロッパ総局訪問

１月３１日、小学部5年生が NHK ヨーロッパ総局を見学しました。最初に、現在パリ近郊で起きている農業団体の抗議行動を取材した映像を視聴しました。本校でも下校時刻に影響が出ているこの抗議行動ですが、まさにこの局で働く皆様が取材したも

のが日本で報道されています。日本では、パリ日に関係する方々も視聴したのではないかと想像されます。

次に、グループごとに「現場中継体験」と「設備見学・スタジオ体験」となり、ディレクターやキャスター、リポーターやカメラマン、スイッチャー、フロアディレクターなど、実際の放送現場の仕事を体験させていただきました。現場で使用されている機材に直接触れたり、番組制作のプロセスに携わったりと、普段できない貴重な体験でした。

最後の質疑応答の時間では、バスの配車時刻の関係で、数個の質問しかできませんでしたが、たいへん丁寧に答えていただきました。学校に戻り、子供たちは一人一人感想を記入し、後日お渡しする予定です。報道の現場は日々刻々変化し、たいへんお忙しい中、また、屋外での寒さにも関わらずご対応いただいた、すべての職員の皆様に心から感謝を申し上げます。

“特集”開校 50 周年記念　～パリ日の「宝」～第２部

【第８回】日本の伝統　餅つき用の「臼と杵」

フランスでは、お正月（特に１月６日）にガレット・デ・ロワというお菓子を食べる習慣があるようです。また、２月には、キリストの誕生から40日を記念してクレープを焼いて食べる習慣もあるそうです。

日本ではお正月にお餅を食べますが、お正月以外でも、お祝い事の時など様々な場所で餅つきのイベントがあります。諸説ありますが、この餅つきは「子孫繁栄」「一族の繁栄」の願いが込められていて、餅つき用の「臼と杵」は、それぞれ女性・男性を意味しているようです。かつては結婚式や家の新築祝いでも餅つきが行われていました。子供の頃、近所の新築現場の屋根から、丸いお餅と「おひねり」という小銭が紙に包まれたものが投げられるのを、嬉々として拾ったことがあります。その家の繁栄を願ってお餅やお金をまいたようですが、子供にはそんな意味はわからず、お小遣い欲しさに夢中で拾っていました。

さて、パリ日にも餅つき用の「臼と杵」があります。かつては「パリ日祭り」の時に餅つきをして、参加者全員に振舞っていたようです。杵に書かれた文字を見ると「10年11月6日　十時やさん寄贈」と書かれていて、2010 年（または平成10年）に「十時や」さんという、パリにあるレストラン（お弁当屋さん）が寄贈してくださったようです。なかなか全員につきたてのお餅を配ることはできませんが、何かのお祝いの折に、このパリ日でも、学校の繁栄や児童生徒の成長を願い、これらの「臼と杵」が活用できる日が来るといいですね。

フランスで購入しようとしてもなかなか難しい「臼と杵」、日本の伝統を伝えるパリ日の「宝」の一つと言えるのではないでしょうか。